

小幡城跡

◆小幡城跡の魅力とは◆



茨城町文化財保護審議会委員
井坂英嗣さん

戦国時代の城跡が、ほとんど手付かずで現在も残っているのは珍しいことです。機能的に造られた小幡城は、実際に戦うための城であり、その時代にあつた無念や虚しさが伝わってきます。城が好きな人や歴史的背景を知る人が、小幡城跡を訪れると、この城の偉大さが分かり、感じるものが多いのではないのでしょうか。

今後、城が好きな方や歴史が好きな方を集め、小幡城について議論や探求をする「城サミット」を開催するのも面白いですね。

城マニアの間で話題に！

小幡にある茨城町指定史跡 小幡城跡をご存知でしょうか。遺構の状態がほぼ原型のまま残り、迷路のように巧妙な空堀からぼりは迫力満点。多くの城マニアを惹きつけ、その口コミはネット上でも話題となっています。「土塁どるいと空堀に囲まれた迷路は土の芸術品」、「幻想的な城！」など非常に高い評価を得て、県外からも熱心な城マニアが訪れます。

今回は、小幡城跡の魅力について取材しました。

中世の城 小幡城の歴史

小幡城は、大掾詮幹の三男である義幹が室町時代（1420年頃）に築いたという説と、小幡知重の三男である光重が鎌倉時代（1220年頃）に築いたという二説があります。

戦国時代の文明年間（1481年頃）以後は水戸城の江戸氏の支配下に入り、現在の城域約12ヘクタールが整備されたのは、元龜・天正年間（1570年代）と思われる、府中城（石岡市）の大掾氏を攻める拠点として重要な役割を果たした。



↑城郭の全体図



↓所在地

の大掾氏を攻める拠点として重要な役割を果

天正18年（1590年）12月には、豊臣秀吉の権力を背景にした太田城（常陸太田市）の佐竹義宣により、水戸城の江戸氏は城を奪われ、このとき、支城であつた小幡城も落城しました。その後、小幡の地は慶長七年（1602年）の佐竹義宣・秋田移封まで直轄地として、家臣の佐竹義宣の管理下にありました。

小幡城はこの天正18年の落城、あるいは佐竹氏の移封の時に、数百年にわたる歴史的役割を終えたと考えられています。

現在も、大規模な中世城郭として、土塁や本丸などの城跡をはつきりとした形で遺す小幡城は、戦国時代に自らの存続をかけて戦った武士の時代を物語っています。

小幡城跡に魅せられた

地域おこし協力隊
徳永隊員が語る！

一昨年、私は町外から移住し、小幡城に足を踏み入れた時、感銘を受けました。

真昼の静けさの中、太陽が本丸に差し込み、風と光と木々のざわめきが出迎えてくれます。土塁は比類なき高さと巧妙さを誇り、訪れた人に、あたかも時間旅行者になつたような興奮と、謎めいた雰囲気を与

この城跡に来るといつも心が落ち着き、異次元に迷い込んだような錯覚を受けます。再び入口に戻ると開けた風景に香取神社の鳥居が広がり見事です。皆さんも一度、足を踏み入れてみてはいかがでしょうか。



空堀は途中で分岐やクランク状に曲がる巧妙な作り。侵入してきた敵を混乱させるような工夫がされています。



城の中心となっていた本丸には、井戸跡が残っています。

小幡城についての資料は乏しく、不明な点が多く謎に満ちた城です。このため、小幡城の歴史に関する情報を募集しています。ご協力をお願いいたします。

【問合せ先】 生涯学習課

☎ 029-240-7122 (直通)

こんな伝説も・・・

本丸のなかにある井戸跡には、落城のときに金の鳥を抱いたお姫様が身を投げたという悲しい言い伝えがあります。